

## やめなっせよ

ひまわり学きゅうの ひろしくんは、タッチごっこが大  
すきです。休みじかんに なると、いつも 二年生みんな  
あそびます。

そうじが おわって、ひろしくんを よびに

げんかんの まえに いきました。

そこに 四年生が きて、

「ひろし、タッチごっこ しよう。」

と いった、あそび はじめまし  
た。

四年生は、手で かたを

わざと つよく たたいたり、

くびの うしろを

うったり して います。

いつもの ひろしくんの

にぎやかな こえも、

うれしそうな えがおも

ありません。ひろしくんが、

「いや。」

と いいました。でも、四年生は、

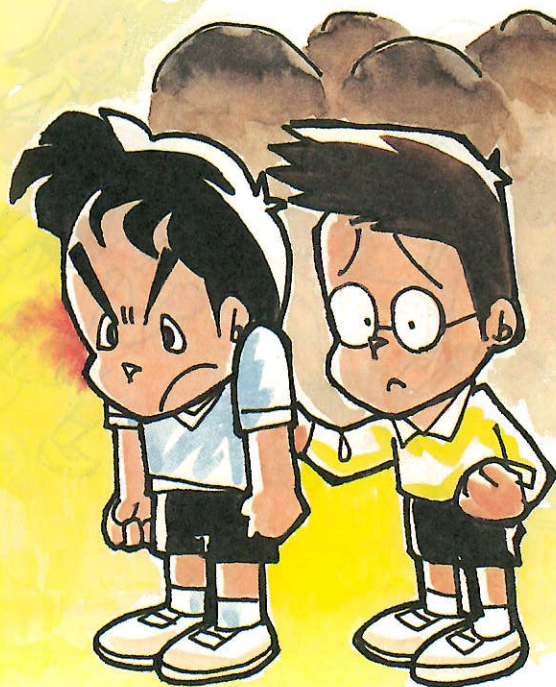
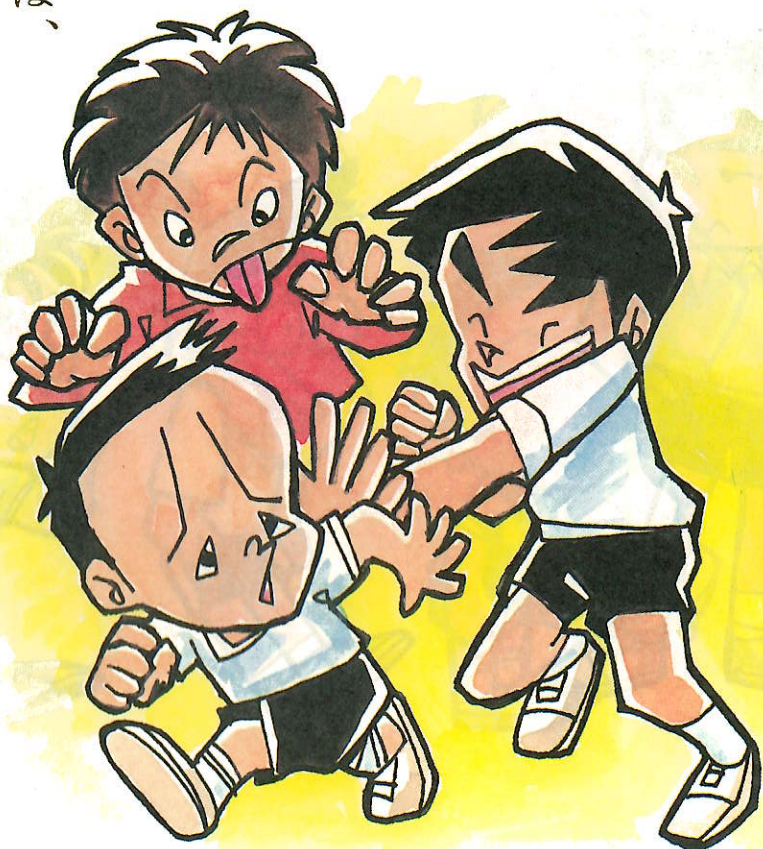
やめようとは しませんでした。

ぼくは、だんだん はらが たって

きました。

「やめなっせ。」

と いうと 思いですが、むねが ときどきします。





「こわいなあ。としうえだし……。」  
いままでにこんなことがなんかいか あったけれど、  
いえませんでした。

ひろしくんも、なにか

いいたそうです。

まわりを 見ると、

なんにんか 友だちも

います。ぼくは、

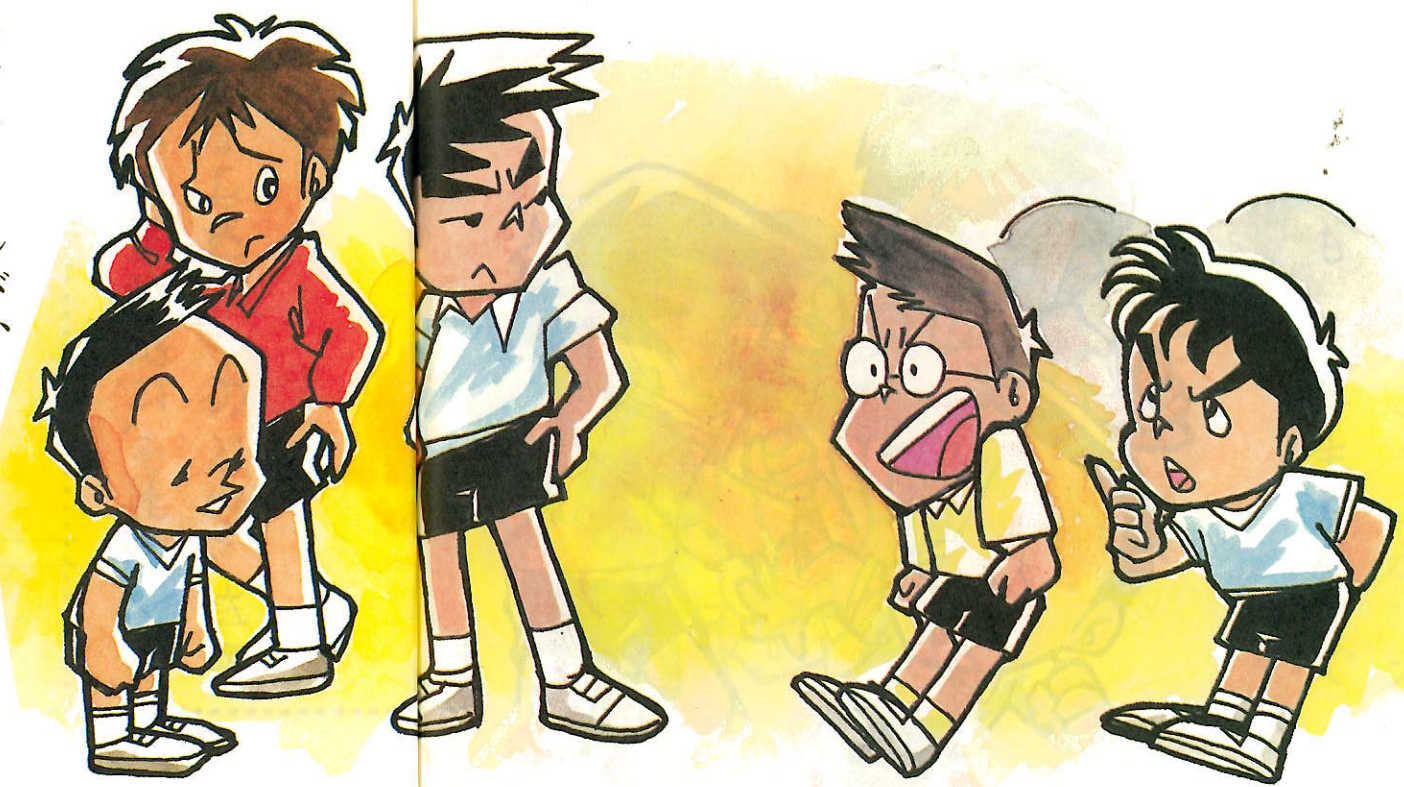
がまんできません。

「やめて ください。」

ぼくは、思いきって

いきました。

こえは、ふるえて いました。



四年生は、

「うるさい。」

と いった、にらみつけます。

だけど、となり いた けいすけくんが、

かおを まっかに しながら、

「うちなすなよ。」

と いいました。ぼくは、ほっと しました。

そして、ふたり いっしょに、

「やめなつせよ！」

と 大きな こえで いいました。

チャイムが なって、四年生は、きょうしつへ もどって  
いきました。

ひろしくんが、にっこりして ふりむきました。